

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

主題聖句

「そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」使徒言行録2章46-47節

発行代表者 原 真理
編集者 樂 満 春 子
印刷所 ヤマダスピード製版

「ルターが異端者であり、西方教会の分裂の責めを負う者と見る時代は過ぎ去りました。現代カトリックのルター研究においては、ルターが抱いていた真の宗教的な意図を理解することに、彼がプロテスタント、ローマ・カトリック共通の教会博士であると認識されています。……一五一七年は、分裂の始まりでしたが、二〇一七年は、一致への道を歩み始めるスタートです。」これは、カトリック中央協議会が発行した「ローマ・カトリックと宗教改革五〇〇年」と題するパンフレットにある文章です。ルーテル教会とカトリック教会の対話の開始は一九六七年、宗教改革四五〇年の年でした。以来五〇年間にわたる対話を経て、その成果は『義認の教理に関する共



宗教改革五〇〇年からの出発
別府 日田 大分 教会牧師 野村 陽一

同宣言』『争いから交わりへ』の2文書に、また先日の浦上教会での共同記念プログラムにもあらわれました。もともと後者に関しては、日本ではルーテル教会とカトリック教会が対立関係にあった時代はありませんから、世界の潮流に従っての開催だったと言ったこともできるでしょうが、インターネットでのライブ配信により全世界に向けた大きな証しの機会になったことも否めません。時代の大きな変化を感じます。

ところで、私たちにはルーテル・アイデンティティーのようなものがあって、宗教改革をふり返るとき、この枠組みにとらわれた見方をしてしまいます。たとえばルターの宗教改革は教会改革、礼拝改革にとどま

らず、社会改革のような広がりを持っていました。子どもたちの学校教育、孤児や貧困家庭のための共同募金箱などはその例です。ルターの同僚メランヒトンドイツ教育の父と呼ばれています。しかし、西欧全体で見れば、これらすべてをルターだけの始原とするわけにはいかないように思います。当時の社会ではルター同様、教会や修道院の現状を憂える人々が他にもいたからです。代表的なものがロヨラやザビエルらが設立したイエズス会です。ルターと同時代です。

大分市内では16世紀の大友宗麟時代の発掘作業が今も続いています。イエズス会日本最初の布教地大分には、当時、教会、病院(ハンセン病棟を含む)、孤児院、教育施設が作られ、音楽教育やボランティア組織がありました。そしてここに、贖宥(免罪符)はありませんでした。両教会の交わりと一致への道は、お互いのリスペクトなしには進むことはできません。

宗教改革500年 日本福音ルーテル教会九州教区記念行事



駐日ドイツ大使夫妻を囲んで。

10月28日(土)・29日(日)、ルターの宗教改革500年を記念して、熊本の九州ルーテル学院大学で記念講演や演奏会が行なわれました。

また、記念礼拝の会場となった九州学院ブラウンチャペルには、九州各地から500名以上の信徒が集まり、賛美の歌声を響かせました。



九学・ルーテル合同吹奏楽部、合唱部の素晴らしい演奏。



出席された方の感想

宗教改革500年記念礼拝に多くの方が集まったということに意義を感じました。

記念演奏会での交響曲「宗教改革」は素晴らしかったので、またどこかで演奏して欲しい。



行きましょう！
主の平和のうちに。



ルターマーケットは大盛況！

沢山の信徒の方の顔を拝見できて良かったです。

世界の平和と和解の実現に向かって、今 歩み出す ...

ルーテル・カトリック 宗教改革500年共同記念

11月23日(祝) カトリック浦上教会(長崎)



宗教改革500年共同記念行事に参加して

廣瀬 美由紀 (長崎教会)

長崎市の被爆遺構を案内する平和案内人をしている私は、修学旅行生などと共にカトリック浦上教会(浦上天主堂)を訪れる機会が多い。その際、中に入りはするけれど、そこで礼拝に与かることを想像することはなかった。カトリック教会は自分には縁がないところという意識があった。知らないうちに壁をつくっていたのだということに、今回改めて気づかされた。カトリックの人たちにとっても壁があったのかもしれないが、隣り合って座り、共にみ言葉にふれ、讃美歌を歌い、祈りを捧げる中で、壁が取り払われていくのを感じた。神様の大きなみ手の中で私たちは一つにされたのだと、心から信じることができた。

私は共同祈禱を唱える役を与えられ、他の祈禱者と共に最前列に着席した。浦上教会はとても大きく、当日は1300名ほどの参加があったと聞いている。午前中のシンポジウムは受付をしていた関係もあり、一番後ろの席に座った。祭壇ははるか遠くにあり、スクリーンで見るしかなかった。それでも興味深く講師の話を聞くことはできたのだが、礼拝を最前列で経験できたのは途方もなく大きな恵みだった。カトリック司教、司祭、ルーテル教会のすべての牧師が祭壇に上り、司式も説教も神父と牧師によって行われ、「主にあって一つ」を実感できるような礼拝だった。ルーテル教会の側には女性牧師がいたことも感慨深かった。礼拝中にスタンドグラスからの光が十字架のキリスト像を照らし、カトリックであってもプロテスタントであっても、十字架のイエス様の救いを信じていることに変わりはないと神様が示してくださったようだった。分裂と対立を乗り越えて平和への道を共に歩む者でありたいと祈りつつ、教会を後にした。



九州教区 夏期聖書学校 平和セミナー報告

2017年7月31日(月)から8月1日(火)にかけて、九州教区の夏期聖書学校平和セミナーが、阿蘇 YMCA 山荘にて行われた。九州全体から大学生の若者から70代までの幅広い年齢層の26名(うち10名が牧師)が集まった。

7月31日午後下りに集合し、開会礼拝。説教担当は、室園教会の西川晶子牧師であった。ナチスドイツの問題にボンフェツファーがどのように向き合ったかについても言及した。大きな戦争という問題の中で私たち一人がどのように向き合い、そこで生きることができるか、生きるべきかについて深く考え祈らされる説教であった。

石原 明子

日本福音ルーテル 本郷教会 会員

熊本大学准教授(紛争変容・平和構築学)



31日の夕方から夜は、東京の三鷹教会の李明生牧師が講話を行った。境界に立つことから平和が開かれるのではないか、ということが問われた。李牧師は、在日韓国人の2世であり、父上も日本福音ルーテル教会の牧師である。子どものころは日本名で育ち、大学生のときに自分のアイデンティティを深く問い直すきっかけがあり、李明生という韓国名を日本語読みで名乗ることを決めたという。牧師になってからドイツに留学をし、博士論文の中で、ルカ書の中でのマイノリティの役割は何か、を問うたという。私が李牧師の講話から受け取ったメッセージは、Whole(全体)ではありえない人間一人一人が、それぞれの違いの境界線に立つことが神との交わりの場所であり、まさにそこに神が立ち現れる。だから、教会は「境界」に立ち続ける必要があるのではないか、という問いかけ。平和構築や紛争変容とも深くつながる哲学と感覚、大変感動した。阿蘇の赤牛とビールでのおいしい食事の恵みをいただき、就寝となった。



翌1日(火)は、朝のすがすがしい空気の中、関牧師のリードによるテゼの礼拝で始まり、それに続き、私は午前のプログラムを担当させていただいた。前日のテーマも受け、境界に立ち平和を創り出すための、体験的ワークショップも含むプログラム。このプログラムを考えたときに、教区長の健軍教会・小泉基牧師と慈愛園の山内恵美さんとプログラムを検討した。もともとは、和解の哲学である修復的正義を体験するプログラムをしようかと考えていたが、むしろ、紛争変容学が大切にしている「紛争や対立や葛藤こそが平和への入口(紛争などがないのが平和というわけではない)」というメッセージを基軸にすることにした。クリスチャンは、つい平和や和解を重視するために、葛藤や対立を避けがちだが、李牧師がいう「境界」が立ち現れるのが対立や葛藤の場面であり、そこから神と出会い交わる入口がある、という考えだ。その違いや対立を入り口に、どのように新しい視点に気づき、和解をつくっていくのかという紛争変容のいくつかの考え方も紹介した。ワークは「平和のイメージ」をそれぞれ、絵と言葉で書いてもらい、グループに分かれて、グループのメンバーとその違いや共通点を見つけていく、というワークを行った。絵や言葉に現れる平和のイメージの違いも、一つの「違い」で、境界のたちあられである。境界にたち、それを越えていく。そんな動的な平和を創り出す教会そして人でありたい。

九州教区 中高生キャンプ報告

鹿児島教会 8/8~10

宗教改革500年とザビエルって？

教育部長 立野 泰博

8月8日～10日、日本福音ルーテル鹿児島教会を会場に「夏の中高生キャンプ」が行われました。

今回は「宗教改革500年」。ルターを学ぶ、その影響が日本宣教につながったこと、さらにザビエルを学ぶことを計画しました。伊集院バプテスト教会の麦野達一牧師がザビエルの学びに協力して下さいました。またルターの学び、桜島観光、足湯でのんびり、温泉、大地の恵み8キロハム食べ尽くし、バプテスト教会中高生との交わりなどなど、盛りだくさんの内容でした。

実際のテーマは「宗教改革500年と日本宣教」～えっ！ルターとザビエルって関係があるの？～でした。九州教区内から、中高生15名、青年スタッフ1名、牧師・神学生6名、講師1名、女性会1名、鹿児島教会女性会2名、運転スタッフ1名、合計27名の参加がありました。

阿蘇山荘が使用不可のため、鹿児島教会の施設利用ができ感謝でした。中高生が鹿児島教会を知るチャンスも出来ました。宗教改革500年を若手牧師の講義で学びました。食事は簡素化し、2日目の夕食のみ女性会のお手伝いをいただきました。今後も数年はマイクロバス利用を考えていきます。いつも教区女性会からの支援を感謝しています。



夏キャンの感想

潮谷 紡(高2) 神水教会

8月8日から2泊3日で夏の中高生キャンプに鹿児島県へ行きました。宗教改革500年ということで、ルターやザビエルのことについて3日間しっかり学びました。1日目の夜には永吉牧師から、ルターとザビエルのことについて学びました。ルターが宗教改革を起こしたことの影響力を改めて知ることができました。2日目には、バプテスト教会で麦野牧師からザビエルのことを聞き賛美したりした後、ザビエルの上陸地にも行きました。ザビエルの銅像があり、思っていたザビエルとは違う外見で、こんな姿だったんだと初めて知りました。夜には、質問コーナーがあり、ルターのことや聖書のことなどを答えてもらう時間がありました。難しいなと感じる質問や、何気なく疑問に思っている初歩的な質問など沢山の質問が出て、知っていたことを再確認できてとても楽しい時間でした。

3日間で実際に出掛けて色々な所へ行き、話を聞いたりすることで、本などで学んだりするより、いろんなことを感じる事ができました。また、一緒に沢山のことを学んだ仲の良い友達や新しい友達に出会わせてくださった神様に、感謝したいです。



被災地支援

7月5日の九州北部豪雨では朝倉市東部・東峰村・大分県の日田市等で40名以上の方が亡くなり、沢山の家屋に被害がありました。被災された方々にお見舞い申し上げます。日本福音ルーテル教会九州教区における募金のとりまとめは8月末で終了しましたが、引続き被災地へのお祈りとご支援をよろしくお願いします。

振込先：ゆうちょ銀行【記号】17410【番号】89238981
【名義】九州キリスト災害支援センター

主な活動報告

- ・常議員会陪席
7/18、9/12 教区事務所
- ・役員会（第11回）
10/14 熊本教会
- ・九州教区夏期聖書学校・平和セミナー
7/31～8/1 阿蘇YMCA
- ・中高生キャンプ
8/8～8/10 鹿児島教会
- ・筑後地区女性会平和礼拝・修養会
8/19 日田教会
- ・熊本地区女性会秋の集い
9/30 熊本教会
- ・会長会
10/29 大江教会
- ・会計：
教区教育部へ支援金納入 7/5
(こどもキャンプ・中高生キャンプ・青年会修養会) 各5万円
後期会費等納入依頼発送 10/10
女性会連盟へ後期会費送金 11/28
- ・女性会連盟担当：
連盟「ひびき」第45号発行 8/25
第9回役員会 10/15
連盟会報 第155号発行 10/15
- ・文書：
証し集「マイストーリー」編集
みちしるべ 第102号発行
発送作業 12/12 久留米教会

九州教区女性会第20回定期総会

と き：2018年2月24日(土)
ところ：熊本教会 (096-352-1772)
じかん：受付 10:30～
開会礼拝 11:00～
総 会 11:30～14:30
* 諸報告
* 2018年度予算案について
* 役員改選
* 第20期主題と活動方針について
閉会礼拝 14:30～15:00
* 第20期役員就任式
参加費：1,000円(昼食代含む)

3年に1度の総会です。ぜひ足をお運び下さい。

編集後記

少し前まで半袖で過ごしていた九州にも、やはり冬が来ました。災害の多い日本ですが、それでも一杯の温かいお茶に癒され、美しい音楽に喜びを感じるひと時を持つことに感謝します。被災地の方々が寒くありませんように。来年2月の総会では、ただお互いの顔を見て、また会えたねと喜ぶ事ができますように。それぞれの場所で温かいクリスマスをお迎え下さい。

(樂満)

ご 召 天

原 弘子姉	97歳	熊本教会	2017年	8月20日
萩原 ヒサ子姉	94歳	元宮崎教会	2017年	9月22日
橋口 栄子姉	85歳	福岡西教会	2017年	10月20日
内山 ヒサ子姉	97歳	箱崎教会	2017年	10月25日
上杉 晴子姉	92歳	箱崎教会	2017年	11月29日

ご家族の皆様のおかげに、主の慰めがありますよう、お祈り申し上げます。

